

# 仏教彫像の制作と受容

—平安時代を  
中心に—

奥 健夫 (文化庁文化財第一課主任文化財調査官) 著

A5判上製函入 本文七二八頁 カラー口絵一六頁 ISBN 978-4-8055-0872-5 C3071

本体価 18000円十税



天王像 天満神社 (滋賀)

本書は奈良時代末期から鎌倉時代前期までを主として取扱い、この期間に仏像がどのようなものとして造られ、社会の中に存在してきたかを論じるものである。

(中略)

本書において重要な時期として紙数を割いて論じるのは、彫刻における和様の成立した時期と説かれる十世紀末ないし十一世紀前半と、鎌倉彫刻の成立に向けてさまざまな事象が相次いで生じた十二世紀後半という二つの時期である。ともに様式の上での大きな転換期であり、これまでの彫刻史研究においてこの時代を主題とした論究が重ねられてきている。その意味では本書は従来の研究の方向を逸脱するものではない。ただし本書では仏像を造るといふ行為のもつ性格が造られるものの形にどのように関わってくるかを問題としたい。

(中略)

本書は、従来の彫刻史研究においてあまり論究が深められるに至らなかった視点を積極的に用いて社会における仏像のありようについて論じていこうとするものである。

〔はじめに〕より抜粋)

像の形だけではなく、用材、造像技法など彫像を構成する様々な要素に注目し、平安時代を主体とする彫刻史を展望する。仏像が制作のみならずその受容も含め、多様な展開を遂げたことへの再認識を緻密な検討をふまえて考究する。

## 目次

はじめに―本書の方法と構成―

### 第一章 礼拝像の機能と社会

- 一 仏像の霊験とその統御
- 二 大安寺本尊釈迦像とその模刻―「名作」の成立―
- 三 六波羅蜜寺四天王像について
- 四 唐招提寺盧舎那仏像の瞳と掌への特殊な工作について
- 五 「五境の良葉」を納める地藏菩薩像とその周辺
- 六 像内納入品小史
- 七 伽藍神の請来と受容
- 八 聖僧供養儀礼の展開と聖僧像

### 第二章 生身信仰と造仏

- 一 生身信仰と鎌倉彫刻
- 二 裸形着装像の成立
- 三 如来の髪型における平安末―鎌倉初期の一向向―波状髪の使用をめぐって―
- 四 清涼寺釈迦像の受容史―鎌倉時代を中心に―
- 五 齒相、仏足文などを具える阿弥陀如来像
- 六 肥後定慶は宋風か
- 七 高野山奥院護摩所不動明王像と石川法住寺不動明王像

### 第三章 造像技法と造像作法

- 一 構造技法よりみた東寺講堂諸尊像
- 二 寄木造の成立
- 三 如法仏概説
- 四 誓光寺十一面観音像と像内納入品
- 五 一日造立仏の研究
- 六 天満神社天皇像について―鉿彫成立論との関連で―
- 七 書写山圓教寺の創建期造像と仏師
- 八 「等身像」概念について

### 結び

初出一覧・口絵出典一覧・Summary・あとがき・索引

#### 著者略歴

奥 健夫 (おく・たけお)

1964年生。  
東京大学文学部卒業、同大学大学院人文科学研究科修了。  
東北大学文学部助手を経て1991年に文化庁美術工芸課技官。  
博士(文学)。  
現職：文化庁文化財第一課主任文化財調査官。

著作等：『清涼寺釈迦如来像』日本の美術 513 (至文堂 2009年)、  
『日本彫刻史基礎資料集成』鎌倉時代造像銘記篇 (共編 <2013年より>中央公論美術出版) ほか

#### 関連書籍

### 平安仏教彫刻史にみる中国憧憬

佐々木守俊 著

本体価格 11,000円 + 税

密教図像の請来と彫像化、印仏・摺仏と呼ばれる仏教版画の受容と普及、像内納入品や大量造像の展開など、平安時代の仏教彫刻史の諸問題について、中国仏教文化受容史の観点から論じる。

A5判上製函入 本文344頁 口絵8頁 挿図130点 2017年2月刊  
ISBN 978-4-8055-0781-0

### 平安密教彫刻論

津田徹英 著

本体価格 17,000円 + 税

400年にわたる平安密教彫刻がどのように展開していったのか、経典・儀軌を精密に読解するとともに、密教図像学的手法を駆使して各尊像の図像表現を解明した、密教造像の意義と展望を示す著者永年の研究成果。

A5判上製函入 本文784頁 口絵16頁 挿図616点 2016年1月刊  
ISBN 978-4-8055-0751-3

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-10-1

IVYビル6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは